



堀辰雄「美しい村」「風立ちぬ」から好きと愛を読み取る

平野, 結梨

(Citation)

課題研究優秀ポスター, 2026:1

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

conference poster

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100504968>



堀辰雄「美しい村」「風立ちぬ」から 好きと愛を読み取る

2232 平野結梨

背景

- 木曜KPで自分の好きなことを突き詰めていったら、私は何が好きなのか・私は何を愛しているのか・そもそも好きと愛の何が違うのか、分からなくなった
- 一年生の時にも使った堀辰雄の作品で研究したいと思った

前提

- ここでは「美しい村」からは好きについて、「風立ちぬ」からは愛についてを読み取る
- ここでは「美しい村」は「風立ちぬ」の前日談であり、この二つの話は繋がっているものとする

調査

美しい村（好きについて）

初夏、失恋し傷心中の小説家「私」が静養のため避暑地のK村にやってくる

- 自然の癒し [1]
野薔薇、アカシア、水車の道、落葉松など
 - 村の素朴な人間関係 [2]
宿の爺や、村の子供たち、西洋人など
- ⇒「私」はこれらを好きになるとともに、創作の素材としていく

夏、宿に来た少女に「私」は恋をする

- 少女が与える影響 [1] [2]
失恋の傷が癒される、野薔薇やアカシアに魅力を感じなくなる
- ⇒このことも創作の素材となり、「私」は生きる喜びや人生の美しさを再び見つける

◎「好き」は変わりやすい 生きる楽しさ、喜びを与える

まとめ・展望

- 好きも愛もどちらも人生に関わっているが、人に与える影響の大きさが違う
好き＝生きる楽しさ
愛＝生きる理由

- 作品の中の登場人物だけではなく、作者についても深く知っていききたい
- 文学をどのように研究するべきか、論文などを読んでもっと学んでいきたい

風立ちぬ（愛について）

春、小説家の「私」は、婚約者の節子と節子の父が住む家を訪れる

- 「私」と節子が望む生き方 [3]
⇒「何もかも全て任せきるほうが良い」と語る

「私」は節子とともにサナトリウムに行き、入院する節子と二人で生活する

- 毎日同じ、少し話したり笑い合ったりするだけの「時間から抜け出したような日々」を送る
⇒二人は愛し合い、この生活に満足していた

節子の死が身近になる

- 「私」と節子の生の欲求 [3]
「私」は節子の死への不安から今の幸福生活を形に残す（小説にする）ことを望む
節子も冒頭で「私」のおかげで生きたくなった、死ぬのが怖くなったと語っている
⇒「何もかも全て任せきる生き方」への反抗

- 節子が「私」を幸せにする
節子は「私」に残せるものは思い出だと気づく
⇒節子は「私」のために生きるように

節子の死後、「私」は村に戻る

- 「私」はリルケの「鎮魂歌」を読み、節子を静かに死なせることができるようになる [3]
⇒節子の本当の愛に気づく

◎「愛」はそれ自体が生きる理由になる 失うことが何よりも恐ろしい

＜文献＞ 新潮文庫 堀辰雄「風立ちぬ・美しい村」

[1] <https://share.google/uBUb9ikPdMzdtk1NO>

[2] <https://share.google/ji2UCH2iQUpjeLukk>

[3] 吉田慧「幸福にさせ合う過程-堀辰雄『風立ちぬ』論」

2026年3月制作